

平成 25 年度第 1 回理学研究科FD研修会についてのご案内

下記のとおり平成 25 年度第 1 回理学研究科 F D 研修会を開催します。ご多忙中とは存じますが、多数の皆様のご参加をよろしく願います。

日 時 平成 25 年 12 月 4 日（水） 16 : 20-17 : 50

場 所 理学研究科会議室

講 演「アクティブ・ラーニングと学修成果」

講師：渡邊 席子先生（大学教育研究センター 准教授）

質疑応答

講演内容・アブストラクトについては、次ページをご覧ください。

アクティブ・ラーニングと学修成果

担当：大学教育研究センター 准教授 渡邊席子(わたなべ よりこ)

結論：アクティブ・ラーニングさえ導入すれば万事OKという単純な話ではなさそう。

平成24(2012)年8月、中央教育審議会より「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」が提示されました。この答申には次のような記述があります。

生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換が必要である。すなわち個々の学生の認知的、倫理的、社会的能力を引き出し、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業への転換によって、学生の主体的な学修を促す質の高い学士課程教育を進めることが求められる。学生は主体的な学修の体験を重ねてこそ、生涯学び続ける力を修得できるのである。(9ページ)

【アクティブ・ラーニング】

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。(37ページ)

この答申が出る以前、平成15(2003)年に、私は自分が担当する受講者200名前後の講義にアクティブ・ラーニングを導入しました。そこそこ手ごたえを感じることができた一方で、以降も試行錯誤を続けるうちに浮かんできた素朴な疑問もありました。

アクティブ・ラーニングを取り入れることによって、講義を受講していた学生に満足してもらったかもしれませんし、面白いと思ってもらったかもしれません。しかし、肝心なのは、講義に満足したかどうかや講義が面白かったかどうかではなく(もちろんそれらも大切ですがもっと大切で肝心なのは)、講義の目標(=受講生に何を得てほしいか)に沿った学修成果が得られることです。実際のところ、アクティブ・ラーニングは学修成果の増強にどの程度役立ちうるのでしょうか。

かくして、自身の実践を振り返って得られたのが、先にお示しした結論でした。

当日は、アクティブ・ラーニングに対してニュートラルな観点にたち、私の実践具体例を中心に、「アクティブ・ラーニングを導入したら何がどう変わったか」、「どこが万事OKではないのか、ベターな落としどころはあるのか」等についてお話したいと思います。

※当日は、レスポンスシステム(クリッカー)を使う予定です。